

第112期 報告書

2017年4月1日～2018年3月31日



***YOUR GLOBAL BUSINESS NEEDS
GLOBAL LOGISTICS***

We Find the Way

 **日本通運**
NIPPON EXPRESS

証券コード No.9062

トップメッセージ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。第112期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

代表取締役社長

齋藤 充

当連結会計年度のわが国経済は、海外経済が回復を継続するなか、輸出や生産活動等の持ち直しによって緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような経済情勢のなか、物流業界におきましては、国内貨物は、自動車部品や鉄鋼等の輸送需要が増加し、国際貨物は、アジア向けを中心として電子部品等の航空貨物が好調を維持するなど、総じて堅調に推移いたしました。

日通グループは、このような経営環境のもと、2016年4月からスタートさせた3年間の経営計画「日通グループ経

営計画2018―新・世界日通。―」の重点戦略である「エリア戦略」と「機能戦略」を軸として、経営計画の目標達成に向け、グループ一丸となって全力で取り組んでまいりました。

「エリア戦略」

- 日本では、大都市圏を中心として、陸・海・空の一体感を強めるとともに、グローバルロジスティクスの基軸となる拠点を整備し、ワンストップ・アカウント営業体制により、グローバル企業との取引拡大を図ってまいりました。
- 海外では、引き続き南アジアを中心に経営資源の集中投下を行い、各国において倉庫拠点の整備を行うなど、アジア発着ならびにアジア域内の物流を拡大し、アジアにおける圧倒的な地位を確立するべく取り組んでまいりました。

「機能戦略」

- 営業力の徹底強化では、ワンストップ・アカウント営業体制の更なる強化に努め、さらに国内地域ブロックの組織再編を実施することで、より広範囲なエリアの情報収集と共有化を進めながら、人材や資産の効果的な活用に取り組み、収益の拡大を図ってまいりました。
- コア事業の強化と高度化では、タイにロジスティクス機能の強化を目的とした地域統括組織を設立するなど、当社の強みであるフォーワーディングをさらに伸ばしていくため、ロジスティクスを軌道に乗せ、好循環を生み出せるよう取り組んでまいりました。
- グループ経営の強化では、グループ各社間での相互連携、施設・設備の相互利用等に取り組んでまいりました。
- 経営基盤の強靱化では、生産性の向上に向け、シェアードサービス組織を設け、経理事務の集約を行い、間接業

務の大幅な軽減を実現するなど、業務の効率化を図ってまいりました。

- グループCSRの更なる強化では、ダイバーシティの推進や長時間労働の解消など、働き方改革を積極的に推し進めてまいりました。

この結果、第112期連結経営成績につきましては、連結売上高は1兆9,953億円(前連結会計年度比7.0%増)、営業利益は702億円(前連結会計年度比22.4%増)、経常利益は743億円(前連結会計年度比16.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は65億円(前連結会計年度比82.1%減)となりました。

今後の経済動向につきまして、国内経済は、個人消費や設備投資の堅調な伸びが引き続き景気拡大を下支えし、内需主導で企業部門・家計部門のバランスのとれた成長が見込まれております。また、海外経済は、米国における内・外需の拡大を受けた企業収益や雇用環境の改善、中国における底堅い消費や輸出の持ち直しなどにより、引き続き拡大基調の継続が期待されておりますが、世界的な地政学的リスクの高まりや欧州の政情不安、米国の政治・経済の動向などにより、先行きは不確実性が高く、不透明な状況で推移すると予測されております。

物流業界におきまして、国内貨物は、景気の持ち直しを反映して底堅く推移し、国際貨物は、世界経済の拡大基調のなかで、輸出貨物を中心に堅調な荷動きが継続すると予測されております。

一方では、生産年齢人口の減少にともなう労働力不足解消に向けた働き方改革への対応に加えて、AIやIoTをは

じめとした先端技術の構築など、極めて大きな課題にも直面しております。

日通グループは、このような経営環境のもと、3年間の経営計画である「日通グループ経営計画2018―新・世界日通。―」の達成に向け、重点戦略である「エリア戦略」と「機能戦略」の遂行にグループ一丸となって取り組んでまいります。

「エリア戦略」

「日本」では、これまで実施した組織再編により、さらに経営資源の集中を進め、大都市圏を中心に、人材や資産の効果的な活用に取り組み、営業力と収益性を強化してまいります。また、「海外」では、成長が見込まれる南アジアにおいて、集中的に投資を行うとともに、海外における事業領域の拡大にも積極的に取り組んでまいります。

「機能戦略」

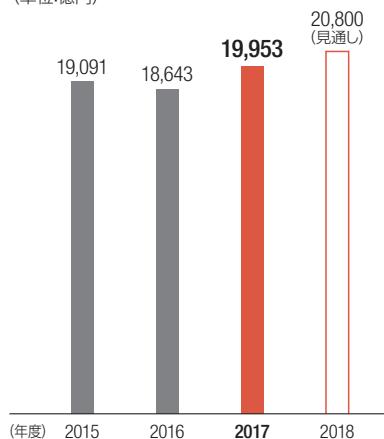
ワンストップ・アカウント営業体制による徹底的な営業力強化に一層努めてまいります。さらに、AIやIoTの進化に対応し、トラックの自動運転やドローンなど、物流業界に変革をもたらす新技術の実用化を積極的に主導し、物流の効率化と、業界における競争優位を確立してまいります。また、安全・安心を基本とした物流サービスを世界中の人々に提供することで、社会の発展に貢献してまいります。

日通グループは、これらの重点戦略を着実に実行していくことで、グローバルロジスティクス企業として、さらなる成長と、より一層の企業価値向上を図り、株主の皆様のご期待にお応えする所存でございますので、引き続き株主の皆様のご理解とあたたかいご支援をお願い申し上げます。

経営成績

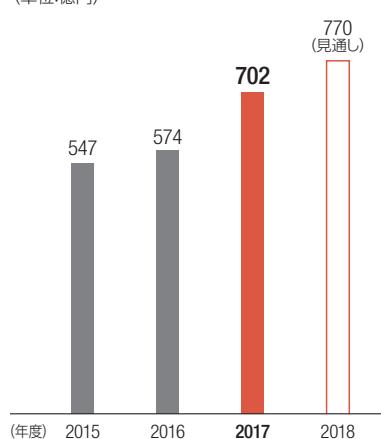
売上高 **19,953** 億円
(前期比7.0% ↗)

(単位:億円)



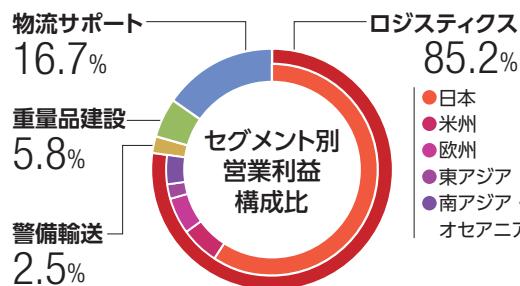
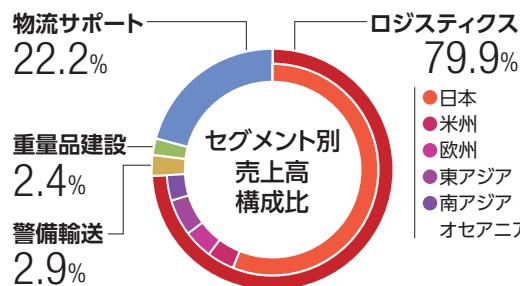
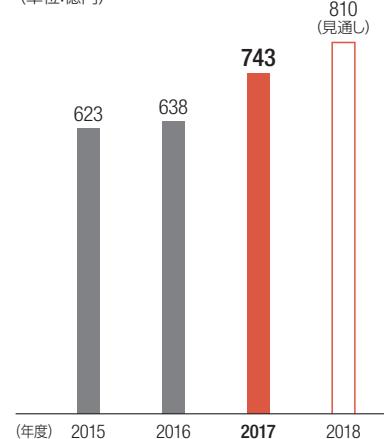
営業利益 **702** 億円
(前期比22.4% ↗)

(単位:億円)



経常利益 **743** 億円
(前期比16.6% ↗)

(単位:億円)



※グラフの比率は調整額を除いて作図しております。

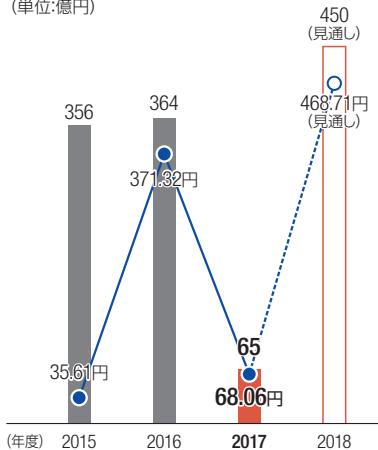
※ 2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株に併合いたしました。これに伴い、2016年度以降の1株当たり当期純利益および1株当たり純資産については、当該株式併合を考慮した金額で記載しております。

財政状態

親会社株主に帰属する
当期純利益 **65**億円
(前期比82.1% ↓)

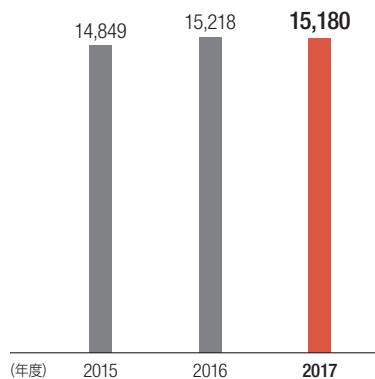
● 1株当たり当期純利益※ **68.06**円

(単位:億円)



総資産 **15,180**億円

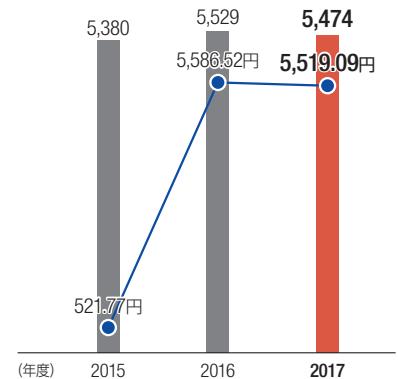
(単位:億円)



純資産 **5,474**億円

● 1株当たり純資産※ **5,519.09**円

(単位:億円)



日通グループ経営計画2018

《2016年4月1日 - 2019年3月31日》

— 新・世界日通。 —

本経営計画では、重点戦略として、縦軸に面としての「エリア戦略」を、横軸に強化・変革の対象としての「機能戦略」を展開し、注力する事業領域と成長地域へのBtoBに特化した集中投資を行い、利益にこだわるグループ経営を推進してまいります。

日通グループ経営計画2018

重点戦略

営業力の徹底強化
コア事業の強化と高度化
グループ経営の強化
経営基盤の強靱化
グループCSR経営の更なる強化

エリア戦略

	日本	海外
両立	「成長性」の	「成長を牽引」の

日通グループの
目指す姿
『グローバル
ロジスティクス企業』

Keywordで紐解く 日通ダイジェスト

トピックス (2017.10.1 - 2018.3.31)

2017.10

「世界日通。」空を飛ぶ

飛行の「正確さ・確実さ」を目指す熱気球競技。その趣旨が多様なニーズに応えたいという当社の姿勢に通じることから、オリジナルデザインの熱気球を作成しました。「世界日通。」のロゴの入った熱気球は、日本各地で開催される「熱気球ホンダグランプリ」に出場し、その雄姿を大勢の方に披露しています。



2017.12

「日本通運×侍ジャパン 野球教室」を開催

当社野球部は、日本代表「侍ジャパン」の稲葉篤紀監督と建山義紀投手コーチを迎え、野球教室を開催しました。総勢102名の野球少年・少女が、元気いっぱい白球を追いかけ、真剣なまなざしで、プロや社会人選手のアドバイスに耳を傾けていました。

参加した子供たちからは、「野球は楽しい」といった喜びの声がたくさん集まりました。



より詳細な情報は当社ホームページの
ニュースリリースをご覧ください。
<https://www.nittsu.co.jp/press/>



より高品質な 輸送サービス

国内航空貨物の最重要拠点、 羽田空港貨物センターの自動仕分け機を一新

当社は2017年12月、発着する貨物の増加への対応と生産性のさらなる向上のため、羽田空港貨物センター*の自動仕分け機をリニューアルいたしました。

この自動仕分け機は、貨物への衝撃が少なく、貨物の形状による仕分け処理能力に差が少ないなどの優れた特徴があり、仕分け時の安全性・確実性がさらに向上いたします。

また、仕分け処理能力のアップに合わせ、接車バースと貨物投入口を増やすことにより、1時間当たりの処理能力も最大6,000個から11,250個と約2倍になりました。

この自動仕分け機の活用により、将来的な羽田空港の航空機発着回数増加にも対応できる、より高品質な輸送サービスを提供してまいります。



*羽田空港貨物センター：羽田空港国内貨物地区内の好ロケーションに位置し、日本国内の航空貨物輸送の最重要拠点として24時間365日稼働する当社の施設。主な取扱貨物は、衣料品や精密機械などで、1日の航空コンテナ取扱量は、発着それぞれで500台以上ります。

空飛ぶ鮮魚便
(Flying Fish Box/
飛び箱)



世界を日本通に

日通の“フード・ロジスティクス” ～世界を日本通にする。～

多彩なサービスと最新技術で日本各地の「おいしい」を、世界へお届けします— 当社は、世界に広がるネットワーク、当社独自の鮮度維持輸送技術および商品特性に応じた高品質な専門輸送サービスを活かして、日本の「食」の輸出をサポートしております。今日も世界のどこかで、日通の“フード・ロジスティクス”により運ばれた食材が、たくさんの人々を笑顔にしています。



主な商品

空飛ぶ鮮魚便



高性能発泡スチロール容器(Flying Fish Box/飛び箱)を使うことで、鮮度保持輸送サービスが可能となりました。繊細な美味しさを、海外の消費者にそのままお届けする航空輸送サービスです。

フレッシュ青果便



当社がオリジナルで開発した加湿技術で、野菜等の鮮度が長持ちする鮮度保持システムです。コンテナ内の湿度を調整し、湿度変化を少なくすることで、青果物の受ける負担を軽くし、農家から集荷した野菜等の鮮度、湿度を維持したまま海外の消費者にお届けする海上輸送サービスです。

その他商品については、当社ホームページをご覧ください。

▶ <https://www.nittsu.co.jp/food/>



「世界日通。フード・ロジスティクス篇」のCMはYouTube日本通運公式チャンネルでも公開中です。

▶ 詳細はP13へ



海外展開

海外展開ハイウェイ運用開始

アメリカでのネット通販を全面的にお手伝い

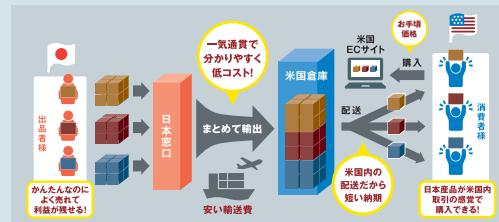
海外展開ハイウェイは、海外展開に意欲的な企業の皆様が輸出において抱える人材・語学・販売チャネル・海外情報の入手・コストといった課題を受け、「日本産品の輸出促進プロジェクト」として中小企業庁の企画から誕生しました。

当サービスは、ネット通販で日本製品を海外で販売するまでの一連のサービスをパッケージで提供するもので、「貿易事務など各種手続き」の代行、「まとめ輸送」による出品までのコスト低減など、日本企業の製品を海外市場に「おまかせ」「簡単」

「低コスト」でつなげるための新しい輸出サービスとして、ネット通販の本場、アメリカから運用を開始しました。

当社は今後も、日本の製品を世界へ向けて輸出しようとする皆様を支援してまいります。

海外展開ハイウェイ





海上輸送



～「ひまわり8」「ひまわり9」就航で、 内航輸送サービスがさらに充実～

2017年、最新の内航船「ひまわり8」「ひまわり9」が、東京～北海道航路の代替船として就航しました。現在、当社は、東京港を起点として、7隻の定期高速船で全国8か所の主要港を經由し、苫小牧・博多へデイリー輸送を行っています。海上輸送は、ほかの輸送モードに比べ貨物への衝撃が少なく、安全性の高いサービスを提供できるため、取扱品目も紙や飲料、建材といった従来のものから農産物や精密機械などへ拡大しています。また、環境にやさしい輸送手段として、モーダルシフトの強力な推進役も担っています。



オート三輪の
とりおろし作業



初のコンテナ内航船「あかしあ丸」

豆知識

当社は1949年、海運事業に本格進出しました。1957年には、自動三輪車の輸送需要に応えるため、日本で最初の自動車専用船「第一金網丸」を導入しました。

1970年代に入ると、海上輸送はコンテナを利用した取扱いが増加し、当社においても初の内航コンテナ専用船「あかしあ丸」を導入し、当時パンク寸前だった陸上輸送を補う役割を果たしました。

新造船「ひまわり8」「ひまわり9」は、貨物を積載したトラックやトレーラがそのまま船舶の側面や船尾に設けられている舷門を通して船内に入れるようになっており、発着地ですぐに自走でき、よりスピーディーな対応が可能となっています。



船首舷側ランプ



船尾舷側ランプ



危険品積載スペースを設けた上甲板



甲板船尾部分

「ひまわり8」の概要 (「ひまわり9」も同タイプ)

総トン数: 約10,620t
航海速度: 23.0ノット
全長: 166.9m
全幅: 27.0m
トレーラ: 177台
乗用車: 約95台



最新設備を備えた「ひまわり8」は、お客様のニーズにあわせ、上甲板に危険品積載スペースを設けたほか、様々な省エネ設備を採用し、環境・省エネ対応を強化させた、最新の高速船です。

さらに、海上輸送でも鉄道輸送でも共用可能なコンテナを使用した複合輸送も開始。当社の内航輸送サービスは充実した内容でお客様のニーズにお応えします。



その他

本社移転

陸・海・空の総合力を発揮できる ワンストップ体制

当社は、東京都千代田区神田和泉町に新本社ビルを建設し、移転することを発表いたしました。

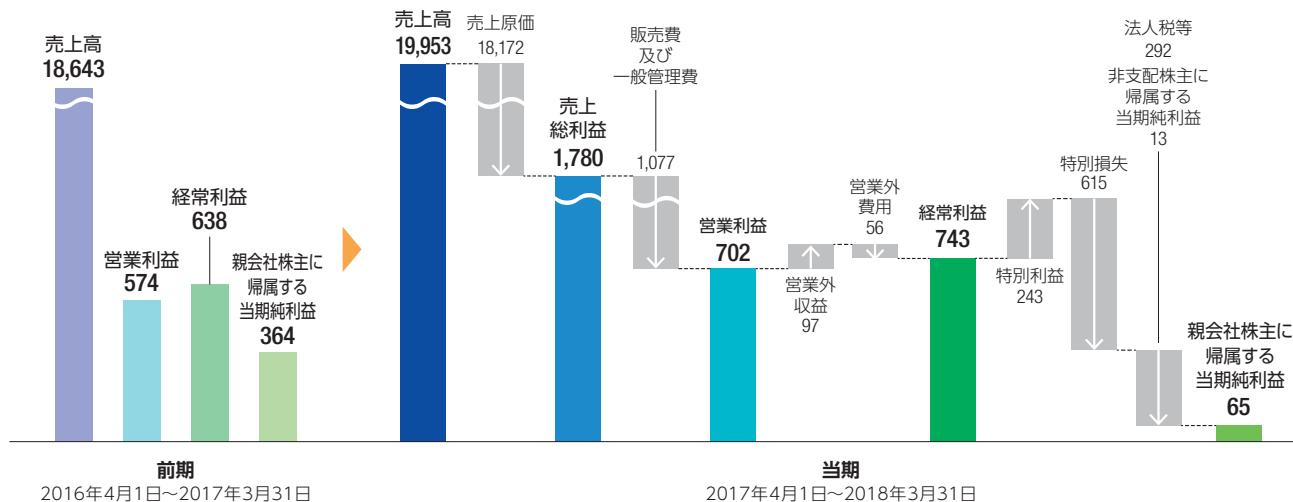
新本社ビルは、地上13階地下1階を予定しており、本社各部門、グループ各社に加え、近隣に点在している首都圏支店、航空事業支店、海運事業支店を1拠点に集約し、陸・海・空の総合力を発揮できるワンストップ体制をさらに押し進めます。

今後、2021年9月の移転に向け、準備してまいります。

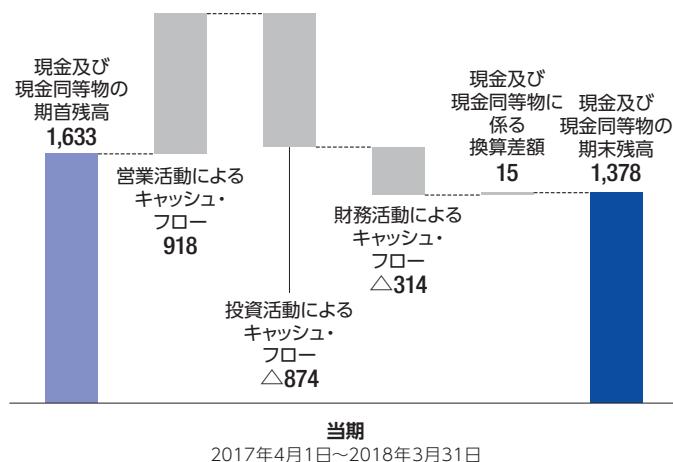


目で見てわかる連結財務状況

連結損益計算書の概要 (単位:億円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:億円)



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

918億円の収入となり、前連結会計年度に比べ104億円収入が減少しました。その主な要因は、売上債権の増減額による支出が増加したこと等によるものであります。

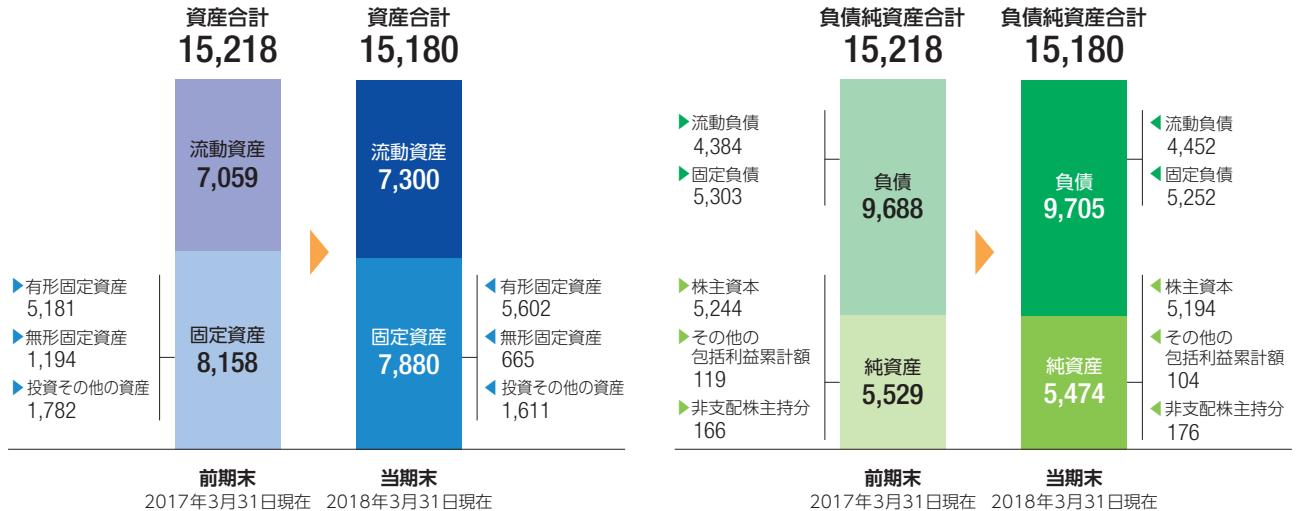
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

874億円の支出となり、前連結会計年度に比べ164億円支出が増加しました。その主な要因は、固定資産の取得による支出が増加したこと等によるものであります。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

314億円の支出となり、前連結会計年度に比べ196億円支出が増加しました。その主な要因は、社債の発行による収入が減少したこと等によるものであります。

連結貸借対照表の概要 (単位:億円)



■ 流動資産

流動資産は7,300億円で前連結会計年度末に比べ240億円、3.4%の増加となりました。その主な要因は、売掛金の増加等によるものであります。

■ 固定資産

固定資産は7,880億円で前連結会計年度末に比べ277億円、3.4%の減少となりました。その主な要因は、のれん及び投資有価証券の減少等によるものであります。

■ 負債

負債の合計は9,705億円で前連結会計年度末に比べ17億円、0.2%の増加となりました。流動負債は4,452億円で前連結会計年度末に比べ67億円、1.5%の増加、固定負債は5,252億円で前連結会計年度末に比べ50億円、1.0%の減少となりました。流動負債増加の主な要因は、預り金の増加等によるものです。固定負債減少の主な要因は、退職給付に係る負債の減少等によるものであります。

■ 純資産

純資産は、5,474億円で前連結会計年度末に比べ54億円、1.0%の減少となりました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金の減少等によるものであります。

会社の概況 (2018年3月31日現在)

会社概要

会社名 日本通運株式会社

本社 〒105-8322
東京都港区東新橋一丁目9番3号
TEL: 03-6251-1111
<https://www.nittsu.co.jp/>

設立 1937年10月1日

資本金 701億75百万円

従業員数 31,871人

支店 345支店

連結子会社および
持分法適用会社 連結子会社 265社
持分法適用会社 24社

事業内容 貨物自動車運送事業
利用航空運送事業
船舶利用運送事業
内航海運業
鉄道利用運送事業
倉庫業
警備業
重量物の運搬、架設、設置および
これに付随する事業
建設業
旅行業
通関業ほか

Topics

日通グループを
巡る

ハリウッドで 青森ねぶたを運ぶ



米国日通ロサンゼルス引越輸送支店は、2017年11月26日に開催されたハリウッド・クリスマスパレードに参加した「青森ねぶた」の組立、運搬を行いました。

このねぶたは、材料を本場青森から当社の手で空輸し、青森のねぶた師の手で制作されたもので、当社は、日米の地域貢献の橋渡し役となりました。



当社青森支店では、毎年、青森ねぶた祭りに参加しています。連続71回出場となった2017年のねぶたのテーマは「斉天大聖孫悟空」。青森支店の従業員やその家族、協力会社からの参加者が孫悟空とともに青森市内を跳ね踊りました。

役員

(2018年6月28日現在)

取締役

代表取締役会長



渡邊 健二

取締役 専務執行役員



寺井 克宏

関東甲信越ブロック
地域総括

取締役

代表取締役社長 社長執行役員



齋藤 充

取締役 常務執行役員



佐久間 文彦

関東・信越エリア担当兼
首都圏支店長



秋田 進

ロジスティクスエンジニアリング
戦略室、事業収支改善推進部、
広報部、総務・労働部、業務部、
NITTSUグループユニバーシティ担当

代表取締役副社長 副社長執行役員



伊藤 豊

海外事業本部長



石井 孝明

グローバル営業戦略本部長



竹津 久雄

ネットワーク商品事業本部長、
管理本部長

取締役 執行役員



松本 義之

航空事業支店長



増田 貴

財務部、グループCRE
マネジメント部担当



杉山 雅洋

(注)杉山 雅洋、中山 慈夫および安岡 定子の各氏は、社外取締役であります。



中山 慈夫



安岡 定子

監査役

常勤監査役



鈴木 達也



神吉 正



林田 直也

(注)神吉 正、野尻 俊明および青木 良夫の各氏は、社外監査役であります。

監査役



野尻 俊明



青木 良夫

執行役員

常務執行役員

近藤 晃
植松 満
池田 誠

杉山 龍雄
吉岡 英

中村 栄一
内田 敏朗

執行役員

佐藤 武司
海野 茂
橋本 浩平

宮脇 一郎
永井 裕
有馬 重樹

中川 真人
合屋 隆司
関根 章好

神取 浩
高橋 浩
浜島 和利

船木 博文
杉山 千尋
竹添進二郎

SPORTS



当社は、スポーツ活動への支援を通じ、スポーツが与えてくれる「夢」「希望」「感動」「挑戦」を世界中の皆様と分かち合うとともに、様々なスポーツの普及、振興、国際化に努力しています。

<https://www.nittsu.co.jp/sports/>


TVCM



「新しい出会いに、おめでとう」篇

当社は、「物流を通して社会に貢献し、豊かな未来を創る」という理念のもと、様々な事業を展開しており、本CMを通じてその取り組みを多くの方にお伝えしています。



「単身まるごと」篇



「SAMURAI SPIRIT 2017」篇

<https://www.nittsu.co.jp/corporate/cm/>


Youtube公式チャンネル

当社に関するCMや企業活動、物流アーカイブスなどの情報を映像でご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/channel/UCatNmOs5hJzVWMfOfQeUnaQ>



単元未満株式買取・買増請求制度のご案内

買取請求

100株未満の株式を、当社に対して市場価格で売却できる制度です。

(例) 60株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場価格で当社が買い取りいたします。



買増請求

100株(単元株式)に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、単元株にすることができる制度です。

(例) 60株を保有の場合、40株を買い増して、100株とすることができます。



各種お手続きのお申し出先

- ①証券会社口座にある株式 ▶ お取引先の証券会社
 - ②特別口座にある株式 ▶ 三菱UFJ信託銀行
- (※下記までお問い合わせください。)

東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株式の諸手続きについては
当社ホームページでも
ご案内しております。

<https://www.nittsu.co.jp/ir/stock-info/procedure/>

日本通運 株式諸手続き



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から
翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数 100株

上場取引所 東京

証券コード 9062

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1 ☎ 0120-232-711
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公 告 方 法 電子公告
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内で発行される日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告掲載ホームページアドレス
<https://www.nittsu.co.jp/>

SAMURAI
JAPAN



世界日通。

日本通運は侍ジャパンを応援しています。

© 2017 SAMURAI JAPAN

We Find the Way
 **日本通運**
NIPPON EXPRESS

〒105-8322 東京都港区東新橋一丁目9番3号
TEL: 03-6251-1111
URL: <https://www.nittsu.co.jp/>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。